

南青協便り 第212号



南米産業開発青年隊協会会報 Boletim n.212:Seinentai do Brasil
2021年12月11日発行 Edição: 11 de dezembro de 2021



山梨県笛吹市御坂町藤野木の農園の藤の花などの写真(長田)
Flores de glicínia num sítio em cidade de Fuefuki, Prov. Yama-Nashi



謹賀新年

2022年が素晴らしい
年であるよう祈願します

FELIZ ANO NOVO



目次(第 212 号) ÍNDICE (n. 212)

一、Fotos da Capa 表紙写真 :

Acima: Flores de glicínia num sitio em cidade de Fuefuki, Prov. Yama-Nashi, foto de 15 a 20 anos atrás por Takatoshi Osada.

Abaixo: Feliz Ano Novo, enfeite de Pinheiros, Bambus, Ameixeiras 1

上 : 山梨県笛吹市御坂町藤野木の農園の藤の花などの写真です

15~20年前に写したものです サンパウロ 8期 長田譽歳

下 : 門松(松竹梅)の写真、謹賀新年

FELIZ ANO NOVO com foto de Pinheiro, Bambu e Flor de Ameixa 1

- 一、 Índice 目次 2
- 一、 綺麗に咲いた火炎樹の花 Flores bem bonitas de FLAMBOIA 3
- 一、 今年の報告とご挨拶 サンパウロ 会長 渡辺進 4
- 一、 【月例会報告】10月。 サンパウロ 会長 渡辺進 5
- 一、 【会計報告】9月分、10月分、支店番号、口座番号、SALDO 6~7
- 一、 沢山の寄付 サンパウロ 8期 長田譽歳 8~9
- 一、 偽札御殿 サンパウロ 8期 長田譽歳 10~12
- 一、 コロナウイリス茶番劇調査委員会 サンパウロ 9期 貝田定夫 ... 13~17
- 一、 自分史 (31) ポルトガル 10期 岡井よししげ ... 18~21
- 一、 勇気ある恋 そして旅立ち フォス・ド・イグアス 単独 齋藤信夫.. 22~24
- 一、 故大石哲也産業開発青年隊同窓会副会長兼沖縄朝霧会会長の葬儀
産業開発青年隊同窓会会長 鈴木浩明.. 25~27
- 一、 弘法の筆は何を《誤った》のか 「柿の種」の小話 27
- 一、 2022年の年明けに思うこと！ 福岡県太宰市 光森徳雄 28
- 一、 2回もPCR検査を受けた顛末記 東京 7期 佐竹宗之.. 29~32
- 一、 我慢と友情 サンパウロ 石井久順 (ボーイスカウト) .. 33~36
- 一、 シャギーニヤ没後200周年祝う 東洋街多文化共存で観光コースを
ニッケイ新聞2021年10月5日号から転載 ... 37~43
- 一、 あらゆる願望、幻想をのみ込んできた天下取りの名刀「義元左文字」の
底知れない魅力 読売新聞 2021/10/13 調査研究本部 丸山淳一.. 44~53
- 一、 パイネイラの木の四状態 .. 54~55
- 一、 【編集委員】 【名簿訂正】 【お願い、お知らせ】 【編集後記】 ... 56



綺麗に咲いた火炎樹の花
FLOR de FLAMBOIÃ, bem florada



今年の報告とご挨拶

会長 渡辺 進

会員の皆様いかがお過ごしですか。

2020年21年共にコロナ禍で不自由な2年間でありました。今年に入ってワクチン接種が行き届き、かなりの落ち着きを見せています。効き目が薄れた頃の3回目の接種も実施されています。一応の安心はできていると思いますがくれぐれも油断しないで、マスク着用、手洗いの励行を実施していきたいと思えます。

さて、今年の南米産業開発青年隊の活動ですが、残念な事に予定されていた大イベントである65周年記念大会がコロナのために延期に追い込まれました。来年どうなるかはまだこれからの状況しだいです。

毎月の例会は集まることができました。例会での毎月の会計報告の承認と、話し合われた議事録の報告を会報に載せていただき会員の皆様に報告してきました。

そんななか9月19日の円光寺での慰霊祭は、長田さんが会報で紹介して下っていますように大変盛況にとりおこなわれました。ニッケイ新聞にも大きく取り上げてもらいました。故人を偲び、元気な仲間と家族の姿を亡くなられた先輩方に見せることができた大変よい慰霊祭だったと思えます。

このように会員とその家族が元気に集まるということが、これからの青年隊にとってとても大事な事ではないかと思えます。お題目は何でもかまいません。何か理由をつけて集まって、楽しくお茶でも飲みながら健康を確かめあう。それを会報に載せて参加できなかった仲間に知らせる。こんな活動が青年隊のこれからを楽しくしてくれるかもしれません。

それを取り持ってくれているのが会報です。ぜひ皆さんで大事にしていましましょう。来年の予定を具体的に決められない、はっきりしない時ではありますが、一日一日を大事にして元気に会員の皆さまと新年を迎えたいと思っています。



月例会報告(10月)

渡辺 進

涼しい毎日ですがお元気で御過ごしと思います。

30日(土)に10月の例会を山形県人会館でおこないました。

- 1) 10月の会計は承認されました。
- 2) 今年の忘年会は12月11日(土)ないしは18日(土)を予定する。
場所は山形県人会館。時間は午前10時から。
料理は(1人前38,00の予定)仕出し屋さんへ注文。鈴木さんに県人会との調整をお願いする。調整がつき次第会員の皆さんに連絡。
- 3) ポルトガルの岡井さんから10万円の寄付を戴きました。
いつもありがとうございます。大事に使わせて頂きます。
- 4) 日本の産業開発青年隊同窓会副会長(沖縄ブロック会長)大石哲也様が10月22日膵臓癌の為お亡くなりになりました。
南米産業開発青年隊記念大会にも出席していただきました。
香典を日本の鈴木会長に立替を願いしました。

出席は盆子原さん、鈴木さん、長田さん、小山さん、渡辺でした。



小山徳 長田譽歳 渡辺進 鈴木源治 盆子原国彦 各氏

南青協月間会計報告(9月分)

2021年9月30日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	8月よりの繰越分			24.911,91
05/Set	年会費 1次池辺治男氏(09)		200,00	
19/Set	慰霊祭法要	1.200,00		
19/Set	慰霊祭食事 Bebida	135,56		
19/Set	年会費 1期ルイザ・ヒロエ大島氏(29)		200,00	
19/Set	年会費 5期菊地義治氏(89)		200,00	
19/Set	年会費 5期馬場和義氏(93)		200,00	
19/Set	年会費 6期猪口光森氏(115)		200,00	
19/Set	年会費 8期北田隆雄氏(225)		200,00	
21/Set	送迎用ペルーア代金余剰金		50,00	
21/Set	年会費 10期平島征他氏(276)		200,00	
23/Set	年会費 10期岡井吉重氏(298)		200,00	
	寄付 10期岡井吉重氏(298)		4.033,94	
23/Set	Oper. Cambio	16,08		
	Rendimento		115,74	
	Total	1.351,64	5.799,68	29.359,95
	—	—	—	—
	—	—	—	—

Bradesco の支店番号と口座番号 05 /Out /2021 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Susumu Watanabe Agência 1480 Conta 0033226-7 SALDO	29.359,95	Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada Susumu Watanabe CPF 698.506.588-00 Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda, 467 São Paulo - SP CEP 04371-000
--	------------------	---

単独渡伯の亀井勇三氏(325)の奥様(1期の本間健様の妹様)より本年度会費 R\$ 200,00 と R\$ 500,00 の寄付を戴きました。有難う御座いました。この金額は10月分の会計報告に記載されます。

南青協月間会計報告(10月)

2021年10月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	9月よりの繰越分			29.359,95
04/Out	会報 211 号 Copia	1.683,00		
04/Out	会報 211 号 Correio	663,05		
11/Out	年会費 1 次溝口拓司(11)		200,00	
30/Out	年会費 6 期盆子原国彦(143)		200,00	
30/Out	年会費 10 期以降亀井勇三氏(325)		200,00	
30/Out	寄付 10 期以降亀井勇三氏(325)		500,00	
30/Out	山形県人会会館月例会 aluguel	120,00		
	Rendimento		117,56	
	Total	2.466,05	1.217,56	28.111,46

Bradesco の支店番号と口座番号		Agência 1480
05/11 /2021		Conta 33226-7
Extrato Conta Corrente		Takatoshi Osada
Takatoshi Osada		Susumu Watanabe
Susumu Watanabe		CPF 698.506.588-00
Agência 1480		Cheque の送り先
Conta 0033226-7		Takatoshi Osada
SALDO	28.111,46	Rua Rishin Matsuda,467
		São Paulo - SP
		CEP 04371-000

最近三ヶ月の間に南青協会員からの沢山の寄付が寄せられました。ポルトガルの岡井様から R\$ 4.250,00 の会費と寄付の入金がありました。また一次の佐々木興氏の娘さん夫妻より R\$ 1.000,00 の寄付を戴きました。9期の板垣勇蔵氏の娘さん夫妻より会費 R\$ 200,00 と R\$800,00 の寄付を戴きました。10期後の単独渡航の亀井勇三氏夫人(1期本間氏の妹さん)より会費 R\$ 200,00 と R\$500,00 の寄付を戴きました。9期の樋口洋司氏から R\$200,00 の会費と R\$200,00 の寄付がありました。誠に有難う御座いました。

今迄 1956年の第一次生渡伯から66年間の間に南米産業開発青年隊員の半数近くの人が亡くなったようです。これから10年、20年の間に更に殆どの方が後を追って行かれる事と思います。その亡くなった青年隊隊員の未亡人の奥さんの何人かは香典返しとして、古くは20年前頃より R\$500,00 の寄付を何人かから戴きました。私も若しかして南米産業開発青年隊協会解散前に寿命が尽きるようなら幾許かの寄付の遺言を三女マユミに託そうかと思っています。

私は南青協60周年記念式典が開催されたオウリーニョス大会の式典2時間前に脳内出血の発作を起こしました。その時は一時意識を失いましたが、一時間程して意識が戻り、60周年記念式典ではフラフラ感は有りましたが、何とか無事終了まで務めサンパウロに帰り着きました。

サンパウロのサンタ・クルース病院で脳内検査をすると、相当量の血液が脳内に溜まっているので、それを取り除く手術をすると日系人医師は言う。手術も無事終了し、脳内血液も無事取り除かれました。

医者はこれで出血が止まってくれたら、万歳だと言われる。2ヶ月程安静にして、出血が止まっていたら宜しいといわれる。これは神任せで何の仕様も無い。二ヶ月程して、再度の脳内検査をすると、結果は脳内に相当量の血液が認められ再度の手術を促される。

サンタ・クルース病院の役員の医者は、今回は脳天の片側だけで既に案内穴が開いているので簡単だと言われる。私は俎板の鯉で何の選択の余地も無い。

その手術の当日三女マユミが病院での手術の手続を全て終了して、帰ると言われた時、私は遺言を伝えました。

その遺言は、私は渡辺会長と2人の名前で南青協の会計理事をしているので、もしもの事が有ったら、我が家の遺産相続の為何がしかの金額が凍結されるので、その金額を我が家の口座から補填して欲しいと伝えたと、それは分ったと言って、病室から出て行く。その遺言も無効になって早5年になる。

私は今迄何回か会報にも書き、日本の兄妹にも手紙を書いて伝えましたが、2028年のリニア・モーターカーの東京名古屋間開通営業運転開業後に試乗する為に訪日するのだと言ってきました。その時は女房と長女と孫2人を連れて故郷へ最後の訪問をするつもりです。

私は今頃毎日朝夕2回約一時間ずつ筋力運動と柔軟体操にマッサージを欠かさずして、その後急な上り坂を四つと下り坂を四つ含めた道を約30分で歩きます。ただし、水泳の有る日は休みます。

ですから間接の痛みは何処にも無く頭の痛みも内臓の悪い箇所も有りません。ですから健康状態は比較的良好です。

只私には4~5ヶ月おきぐらに現れる肋骨の痛みの肋間神経痛の病が有ります。その痛みは4~5日程継続しますが、然程痛いものではありません。

3週間程前に私が持っている藤の植木の45キログラム程の重量の植木鉢を180センチメートルの高さの棚に揚げようと思い、15歳の孫と2人で持ち上げると、孫が持ち上げきらずに腰割れして力を抜いてしまったので、私の脇腹の肋骨にもろに重量が掛かってしまいました。昔なら60キロの綿袋を一気に頭の上まで持っていったのに悲しくなります。

その時は痛くも何とも無かったのですが、その夜中から肋骨が痛み出しました。また例の肋間神経痛が現れたなと思いました。その肋間神経痛の特徴は痛い箇所がはっきり特定出来るのです。それが今回の痛み始めもまったく同じでしたが、その痛みが以前に比べたら猛烈な痛みで継続的なのです。痛みが酷いばかりでなく、意欲がまったく湧かず朝は目覚めが悪く昼過ぎには決まって昼寝してまったくの病人でした。

丁度その頃成人病の女医の診察日でしたので、その肋骨の強い痛みを話しました。するとレントゲン写真を撮って直ぐ戻るよう言われました。急いでレントゲン写真を撮って直ぐ診察に戻りました。レントゲン写真を見たその時は既に痛みも軽減していました。その日系の比嘉女医が言うには脇腹の最後の肋骨がひび割れていて、既に癒着していると言われる。

痛みは既に無くなっていたので、その言葉を聴いたときに凄く安堵しました。私はあの凄い痛みは何か別の病気ではないかと思ひ不安が募りました。これで私の健康寿命が少し先に伸びて7年後の日本旅行の可能性が残されました。



それは昭和 25 年 4 月中頃の朝一番の出来事でした。私は小学 5 年生になってようやくと新学年の学校生活も馴染んだ頃の早朝でした。朝の暗闇を破って数台の車と数台のオートバイが村中に入って来て、上村の方に爆音を轟かせて通過して行きました。そして一時間程してけたたましく又来た道を全部の車が走り去って行きました。村には未だ車もオートバイも一台も無かった時でした。こんな事は村開闢以降初めての事でした。

母親は忙しく朝の食事を準備している、私の二つ上の兄がどうしたんだろうかと母に尋ねるが、母は黙って忙しく食事の準備をして、早く学校に行きなと言って表に出て行く。私達は食事を済ませカバンを持って表の道に出ると、道の上側にも下側にも三々五々オバサン連中と親父連中があっちこっちに数人のグループで集まって。ヒソヒソ話をしている。その横を通過して母親のグループにどうしたのかと尋ねても、早く学校に行けと追いやるのみで何なのか一向に理解出来ない。私達の部落は村の 10 有る部落の中で一番学校に近く歩いても 7～8 分の距離です。

学校は運動場を挟んで南側が小学校で北側が中学校でした。その学校に行くと始業前の遊びは、部落内の小学四年、五年、六年生の集団になって、いろいろの遊びを毎日授業が始まる前一時間位楽しみました。その朝私達の陣地に着くとほぼ全員が集まっていて、一年上級の 6 年生のショウビ君が、今朝は自分の家の隣の橋田（きた）先生の家で、警察官と新聞記者が表戸を蹴破って侵入して連行して行ったと言う。その容疑は偽札造りだと言う。

そのショウビ君の家は橋田先生の家のはず向かいの二階家ですので、新聞記者のカメラマンが彼の家の上階に上がって橋田先生の家を写真で何枚も撮りました。橋田先生は終戦少し前に私達の小学校の校長を務め引退して退職金で新しい立派な二階屋の住宅を新築して居ました。家の周りには沢山の植木が植えられ立派な絵ガラス張りの御殿でした。ピカピカの新築の御殿を見て、新聞記者は偽札で御殿を新築したものと勘違いして、翌日の新聞記事には第一面ぶち抜きで偽札御殿と 2 人の共犯者の写真を大きく記載されました。

その偽札造りの共犯者は旧制の中学と師範学校の同級生の親友でした。その友人は甲府盆地の中央部の昭和村に住んでいました。昭和村は水郷地帯で当時は比較的豊かな農村地帯でした。彼は当時比較的新しい凸版印刷機を持って印刷業の仕事をしていました。

最初はいたずら心で紙幣を印刷しました。その内に熱が入って、紙の質も上質の紙を見出し研究を重ねる内に随分立派な千円札が出来ました。これを親友の橘田先生に見せました。橘田先生は持っていた自分の千円札と比べて見て、全く本物以上だと思われました。

橘田先生は派手好きで金使いが荒く学校長の退職金も新築の御殿に使い果たし借金が残ってしまい、今はキュウキュウの生活を強いられてしまいました。それに長女が23歳の嫁入り時なのに、あるのは教師の月々の年金のみです。何とか立派な嫁入り支度をしてやりたいと頭を痛めていました。

昭和村の師範学校時代からの親友が2人でこの金を沢山造って一儲けしようではないかと持ち掛ける。彼は考えるまでも無くやろうと答え、君が造って自分が裁き儲けは半々でどうかと話すと、よかろうと言う事になり話しは進む。ですから主犯格は橘田先生になってしまう。橘田先生は数枚の偽千円札を家に持ち帰り一晩中見詰めてもその違いを見出せない。

よし明日の夜は甲府のキャバレイに行つてこの金で豪遊してやろうと考える。この時橘田先生は58歳、長女は23歳の嫁入り時、長男は高校2年生、次男は中学2年生、次女は私より一歳少ない小学4年生でした。

先生の奥さんは色の白い甲府市内育ちの町娘でした。長男は父親に似たのかあまり真面目とはいえない青年。次男は時の首相の東条英機の名を貰った優等生タイプの真面目人間。末娘は母親似で私より1学年下で色白の美少女。

戦前のことでしたが、先生の奥さんは以前住んでいた家屋が火災で焼失した時、焼けている家から逃げ出すため、有針鉄線に足を取られ、足に大怪我をして長い間ビッコを引いて不自由なようでした。

さてこれからは懐に分厚い札束を持って豪遊してやろうと思ひ夕方は町に出掛ける。最初は夜の暗がりの中で手渡す為には夜の酒場で飲み歩く。最初は何の問題も無く順調に行っていたのだけど、案外簡単に偽札が発覚してしまい足が

割れてしまい、冒頭の取り込み捜査になり、あっけない終幕に成ってしまいました。偽札は目を誤魔化せても指先の肌触りの感触は誤魔化せません。

本人は刑務所で終身刑が決まり、金の心配は何一つ無いので気楽な物ですが、残された家族は農地は僅かしか無いので生活して行けません。

多分犯人の年金は情状酌量の汲み取りが有り家族に下りたのだらうと考えます。

長女は無事何処かに嫁ぎ静に暮らしていたのだらうと思います。その後の消息は年が私とは離れていたのと家が遠かったので分かりませんでした。

長男は父親に似て酒好きで派手好みで、元々酒場で知り合った女性ですので早いうちに別れたようです。手が後ろに回らなかつただけでも父親よりましだったと考えられます。次男と次女は普通の家庭を築いたようです。

橘田先生は服役中入所間も無く肺結核に冒され発病して、一年少しして自宅療養の減刑になり、それから半年程して亡くなりました。

その自宅療養中私達が先生の家をグルリと回って見に行った時、先生は書齋で読書中でしたが、屋敷内に浸入した我々をチラッと見て何も言わずに、又読書に勤しむ。

その自宅療養の間に深く反省して女房と4人の子供に深く詫びた事と思います。

家族に見守られて天国に旅立たれたのは先生に取ったら、せめてもの幸せだったと思えます。

私もゴザの仕事をしていた時一度50レアイスの偽札をお客から受け取った事が有りました私が、見た目では少しもその紙幣が偽札だとは見えませんでした。その偽札で薬局に行って薬を買おうとすると薬局の支配人がこれは偽札だと言われ、別の紙幣と変え事なきを得ましたが、一つ間違うと警察に連行される恐れがあるのですぐ焼却してしまいました。

今は橘田先生の偽札御殿は次男の橘田英機氏が無事に守り住んでいます。その英機氏は人当たりも良いので保守的な村人とも旨く行っているようです。やはり生まれ育った故郷は他の場所より住み易いのだらうと思われま



コロナウイルス調査委員会の茶番劇

サンパウロ 9 期 貝田定夫

ブラジルの上院にコロナウイルス調査委員会(以下委員会とする)が設置され、これまでの連邦政府のコロナウイルス対策について調査が行われた。

委員会設置の大義名分は、ブラジルのコロナウイルスによる死者は世界で2番目に多いことから、連邦政府の対策に問題があったのだというもの。しかし、委員会の主要メンバーと調査のやり方その内容から、連邦政府の失敗などをかき集め、ボウソナーロの失政を糾弾して来年の大統領再選を阻止するのが目的と見られる。

委員会は2021年4月27日に設置され、終了したのが10月26日。証人または参考人として呼ばれたのは、政府関係者(大臣、局長など)、国会議員、実業家、感染症の専門家など合計65名に達し、委員会は6ヵ月にもわたって延々と行われた。委員会終了後、最終報告書が連邦検察庁に送付された。

この報告書は、ボウソナーロを始め政府関係者、国会議員、実業家、医師など53名が罪を犯したと述べている。報告書の最初にボウソナーロの名があり、彼に対する疑惑は、コロナウイルスを軽視して多くの人を死なせた、不適当な治療法を奨励した、規則に反してマスクを使用しなかった、予算を不正に使った、支持者を扇動して暴力を振るわせたなどであるが、マスクを使わなかった以外は具体性のない事ばかりである。報告書の内容が捜査に値するの否か、アラス検察庁長官の判断次第という事になる。

委員会の主要メンバーを見てみると、委員長はオマール・アジス。彼はアマゾナス州知事時代に公金横領と収賄の罪で起訴され、さらに小児性愛者として告発された。上院議員になってからも業者に200万レアルのワイロを要求した汚職容疑で訴えられている。まともな人間とは思えない。

副委員長はアマバ州出身のランドルフ・ロドリゲス、州議員時代に汚職容疑で告発され州内では悪名が高かった過去がある。そして委員会の書記はレナン・カリエイロス、彼は公金横領で起訴され、2016年に最高裁が受理したので被告となり最高裁で裁判されることになった。

しかしながら、あれから5年経過した現在に至るも裁判が行われる気配は全く無く、彼は被告であることを忘れたかのごとく振る舞っている。その裏には最高裁と政治家達のなれ合い、癒着、黒い闇の関係が感じられる。書記は、証人や参考人の発言内容、委員との質疑応答などを含め、議論を取りまとめ最後に報告書を作成する任務がある。これらの仕事を被告となっている犯罪者がすることを誰も阻止しなかった。

これら3人の主要メンバーは上院の反ボウソナーロ派に属する。委員会が政治的な思惑で組織されたことは明らかであり「結論ありきの委員会」と言える。

委員会は全てテレビ中継されたので、出席者が誰で、どのような議論がされ、証人や参考人の発言内容はどうだったのかなど詳しく知ることが出来た。この委員会では、口論、怒鳴りあいは毎度のことで、ひどいときは委員長が証人や参考人を脅すなどとんでもない光景も見られた。テレビ中継された実例からこの委員会の異常さを紹介したい。

今年6月の始め、日系の医師で免疫と腫瘍の専門家、ニゼ・ヒトミ・ヤマグチ(62才)が参考人として委員会で発言した。彼女は辞職した保健相、マンデッタの後任候補者の一人だったので、重要参考人と見られていた。委員会は、ニゼがボウソナーロに助言し彼の意思決定に影響していたと見ていて、レナン・カリエイロスは厳しい質問を浴びせ助言の内容を引き出そうとした。しかし、ニゼは医師として専門的なことを話ただけだと言い、助言や意思決定への影響をきっぱり否定した。レナンは思惑どおりに行かないことに憤り、大声でま

くし立てニゼにもものを言わせない。委員長のオマールはニゼに向かって「あんたのもの言いが気に入らない」と暴言をはいた。

その後少し間をおいてから委員のオットー・アレンカーが発言した。彼は上院議員になっている医師で、感染症についてひとくさり講釈した後ニゼに向かって「あなたは感染症について何も知らない、勉強もしていない」と侮辱した。ニゼは冷静さを保っていたが、ニゼに随行していたジャネ・シルバ(女性で弁護士と思われる)が「参考人に対して敬意をもって接して戴きたい」と抗議した。これで口論となり、騒ぎは段々大きくなって行った。最後にはオマールが委員長の権限を振り回し、ジャネ・シルバを退場させた。

2週間後、ニゼは委員会での発言について書状を公開した。その大要は次の通り。「上院の委員会において、私に対する非礼と侮辱があったことは国中に知られることになりました。40年以上医師として働いてきた私にとって、このような状況になることは夢にも思いませんでした。社会が何十年にもわたって発展してきたにもかかわらず、国会において女性蔑視が続いていることは悲しいことです(中略)。私の発言は何回となく中断されました(レナンが大声を出してさえぎった)。

私が話したこともないことを、言ったのに違いないとされ、私の説明は無視されました(中略)。私が反論しなかったのは知識がなかったためではなく、礼儀を重んじるためです(売り言葉に買い言葉のケンカはしませんという意味、中略)。連邦医学評議会及びその他の方々からの支持と激励の言葉を戴いたことに感謝致します」。そして、名誉回復のため委員長のオマールとアレンカーを告訴したことを明らかにした。

コロナウイルスの感染対策で一番大きな問題は、中国製のワクチン、コロナバックを導入したこと。2020年3月ブラジルで最初の犠牲者が出たあと、サンパウロ州知事のドリアはワクチン導入のため中国と交渉を始めた。最高裁が、

各州の感染対策は夫々の州知事に権限があると決定したので、ドリアは連邦政府に相談することもなく独断でやっていた。6月には中国の国有製薬会社シノバックとコロナバックの生産および人間へのテストをすることで合意し契約した。

ボウソナーロは中国製のワクチンを嫌い、「コロナバックは買わない」と度々言っていた。これに対してドリアは「人命を軽視している」と猛烈に反発し、ことある毎にボウソナーロを攻撃していた。ボウソナーロは「知事達が感染対策を決め費用は国が持つのか」と皮肉り、不満をぶちまけていた。

ドリアは、まだ出来てもいない有効性もわからないコロナバックの導入を決めた後、20人以上の知事達と連携してANVISA(国家衛生監督庁)に圧力をかけた。知事達は、ワクチンを接種しなければ大変なことになる、死者が増えればあなたたちの責任になると脅し文句をならべて迫り、コロナバックの使用を承認させた。

コロナバックの有効性50,4%はファイザーの95%より格段に低く、専門家はコロナバックの予防効果を当初から疑問視していた。にもかかわらず、州知事達の政治的判断でコロナバックが使用された。コロナバックを導入した国々から予防効果がないとの声が上がりはじめていた。ブラジルでは有名な俳優、タルシジオ・メイラが「コロナバックを2回接種したにもかかわらず死亡した」とのニュースが報道され、ブラジル社会に衝撃を与えた。これで国民のコロナバックに対する不信が一気に高まった。そして、本家本元の中国が自国製ワクチンの有効性の低さを認めたことで決定的となる。

結局、予防効果のないコロナバックに莫大な公金が使われたことになる。誰かが責任を取らなければならないだろう。これこそ委員会で調査されなければならない大きな問題なのだが、全く無視されている。また各州の知事や市長は、仮設病院の建設や医療機器・医薬品の調達に際して多くの不正があったと

告発されたが、委員会はこれらも無視している。ドリアには以前から中国との黒い噂がある、検察庁は彼を捜査すべきだろう。

10月27日、ロドリゴ・パシェコ上院議長が2022年の大統領選への立候補を正式に発表した。このニュースを見て委員会に対するこれまでの疑問が一挙に解けた。委員会は何故開かれたのか、何故この時期なのか、主要メンバーが全て反ボウソナーロ派なのは何故か、委員会は6ヵ月にもわたって恥をさらしたが、上院議長は沈黙し何も言わなかったのは何故か、などが主な疑問だった。

委員会は上院に属し、最高責任者はパシェコ上院議長である。委員会でボウソナーロを叩けば叩くほど、大統領を目指すパシェコにとっては好都合。委員会の主要メンバーが反ボウソナーロ派なのもうなずける。委員会の報告書も出たし、これからボウソナーロが捜査されるならば、パシェコにとって願っても無いところ。そして、委員会の最終報告書が承認されるのを待って、大統領選への立候補を表明した。全てが計算済みだった。悪知恵の働く政治家達には苦笑するしかない。



ある日先輩の吉村氏が曰く、『「よっちゃん！」明日の夕方ポルコを売る為にマリンガまでカミニオンが出るので、これに乗ればサンパウロに行く為のバス代が節約になる。だから一緒に行くか？ 出発するか？』と言われた。

勿論お願いしますと答え、出発に当たっては同期の長尾の団ちゃんも一緒に行く事になった。

サンパウロ市に出ると言っても大都会である。誰を頼りに、親しい知り合いは全然いない、接する周りの人達は勿論ブラジル人ばかりで横文字でペラペラ話している。「よっちゃん」は精々季節の言葉とほんの日常の片言しか話せない、それに増してお金が無い。まあ、首にお守りとして100ドルをぶら下げているのとオニバス代として貰ったお金と確かもう20ドルは有ったと思う。心配しても始まらない、死には行く訳ではない、新しい人生の門出だ。

さて翌日の仕事が終わってからの夕方に出発する準備だ、夜中に走るのでカミニオンに寝床を作らないとだめだ。乗る場所は運転席の側では無い。カミニオンの前側に今まで使っていた藁で出来ているコッションを2枚置いて、ポルコと一緒にだ。ポルコと区別する為にポルコ全体をテント布で覆った。「よっちゃん」達は勿論テント外である。

皆さん方にお礼を言って出発した。ところが車が順調に走っていれば快適に寝て過ごすことが出来るのだが時々ブレーキを掛けるとその反動でポルコ達がワ～と前の方に押し寄せてくるので、ポルコ達に押し殺されてしまうので背中をカミニオンにつけて両足でポルコ達を押しつかないと駄目だ。

寝るところかカミニオンがブレーキを掛けるたびに、生きる為には必死でポルコ達と足で押し合い、へし合い悪戦苦闘の連続でなんとかマリンガまでたどり着いた。そこからサンパウロ行きのオニバスに乗ることができた。

途中でトイレや食事の都合で止まるが、驚いた事には食事は確か 12～15 種類位出てくる。鳥、牛肉、豚肉、魚、野菜、フェジヨン、ご飯など、そして肉が無くなればすぐ同じ物を持って来る。食べ放題で腹一杯になってから勘定する。今みたいに食べ物の重さで払うのではなく、腹一杯で定価で払っていましたね。

そうかブラジルは腹一杯食べて、満足してから代金を払うのか？

全くいい所に来たもんだと思ったが、後で、サンパウロで酷い目にあったことがあった。

サンパウロに着いてガルボンブエノ街の日本食堂に入った。懐かしい物ばかりで随分と食べた、何をどれだけ食べたかはとっくに忘れてが出てきた勘定にはぶったまげたね～。

又日本式の床屋さんに髪を切ってもらいに行った。日本式にちゃんと髪を切って、顔剃り、頭洗いと有難かったが、これも目の玉が回るくらいに払わされたのには驚いた。ここは外国だ、郷に入らずんば郷に従えだ。後で分かった事だが当地のバルベイロは普通は髪を切るだけで、顔そりはお金のある人が頼むのであって、我々超庶民は髪を切って頂くだけである。

最初は安宿を探して落ち着いてから腹を決めるが、まず頼る人を当てにしなければどうする事も出来ない。色々当たってみたが結局はいざとなれば皆拒否されてしまった。それで思い出したのが日本からサントス港に着いて、そこからモインニョベリヨで滞在していた時に農拓協の世話人の一人である山崎さんと知り合いになった。

その時に山に入って出てきたら必ず我が家を訪ねてこいよと言われたことを思い出して、ニッチもサッチも行かない状態の時に藁をもすがる思いでジャバクアラの山崎邸を訪ねて行った。

果たして「よっちゃん」の事を覚えていてくれただろうか？ 一抹の不安を感じる、もし一言知らないよとか又今度にしてくれよとか言われて断られたら一巻の終わりである。あ～、どうしようかなあ～。

しかし先輩の吉村氏から言われた凶々しく当たってみようと呼び鈴を押した。

あれから3ヶ月たって今居る所はリベルダーデ区のルア・サンパウロ200番の下宿屋さんにお世話になって居る。どうしてかって3ヶ月もずうずうしく居たので追い出されてしまった、と言うのは嘘ですが外国で身寄りのない独り者が、それもブラジルに居てブラジル語もろくに話せない、お金も無い青年がどうしたら毎日過ごしたら良いのか？

山崎家に訪ねて行った時に幸い山崎さんがいて、「よっちゃん」の事を覚えていてくれた。やあ、よく来たな～、大変だったよねとねぎらいの言葉を掛けてくれたのにはとても嬉しかった。この人は何でも知っているみたいだな～と。これを機会に山崎家とは切っても切れない縁を結んだものです。

彼の家で2～3日ボーッと過ごしていたがここにはジーちゃんとバーちゃんが元気に住んでいて家事全般の世話をして、呼んでくれた山崎さんはこの家の長男でマコトさんと呼んでいて彼の下にもう一人の弟がいる。そしてマコトさん自身は婚約者がいてその内に結婚すると言う二世の可愛い人でとても世話好きな方でした。

「よっちゃん」は三日、一週間と凶々しく居座っていましたがその内に、後ろの物置にカーマを作ってそこに住む様に言われてそこを寝ぐらにしていました。「よっちゃん」のカーマはりんご箱を6箱並べた上にコッションを上に置いた簡単ベッドでした。「よっちゃん」の心境はと言うと、とても街に出るのが怖かった、別に殺される訳でもないのにやはり言葉が出来ない劣等感の方が大きかったみたいです。

又結構周り近所に日本人が住んで居るのでジャポンノーボが山崎家にて指圧が出来るのが、少しは噂になっていたみたいです。山崎さんのおばあちゃんは血圧が高いのが気になっていたので、「よっちゃん」が指圧をしてあげたらとても気持ちが良い調子が良いととても喜んでくれて、それが近所の話題になっていたらしい。それで私にも指圧をしてもらえないだろうかと言ったので山崎のおばあちゃんに頼み込んでくるので、片っ端から喜んで指圧をタダでやってあげたものですからとても皆様方から喜んでもらいました。

中にはどうしても受け取ってくれと10ドルとか20ドルをくれる人もいました。勿論現地の貨幣で計算するとです。全く有難いものです。これが勇気づけられましたね。その内に1ヶ月、2ヶ月とズルズルと日経って行きました。3ヶ月経った頃にマコトさんがもう結婚するから出て行ってくれないかと言われたものですから、思い切って町の中央のリベルダーデに行く事を決心してお暇をさせて頂きました。そして下宿生活が始まったのです。

(つづく)



勇気ある恋 そして旅立ち

フォス・ド・イグアス 単独 齋藤信夫

年老いて 早寝早起き 習慣（くせ）となり、今朝も4時の目覚めでした。バアさんはまだ夢の中。一人起き出しミルクを沸かし、インスタントのカフェーとで、先ずはカフェオーレを作り、其れを飲みながら、テレビを付けますと秋篠宮殿下御夫妻の長女である 眞子さん（結婚で皇族離脱、今日から「様」でなく「さん」となりました）と小室圭さんお二人の結婚記者会見のニュースが流れておりました。

婚約発表から、4年余りの歳月が過ぎていました。婚約発表後、小室圭さんのオッカさん（下々の言葉で申し訳ありません）が、元婚約者との間に起きた、金銭トラブルが発覚、女性週刊誌は炎上、YouTubeにはない事・ない事、これでもかコレデモカと叩かれる始末。

圭さんは冷却期間を置くためもあったのでしょうか？ 前倒しでニューヨークの法律学校へ留学。そして今回無事法律学校を終了。眞子さんを迎えに帰国しました。幾ら叩かれても、お二人の愛は変わらず、今 結婚の記者会見となりました。けなげな御二人を観て、私は我が郷土の大先輩、作曲家、船村徹作曲、日本レコード大賞受賞の名曲「矢切の渡し」を知らず知らずのうちにハミングしていました。

つれてにげてよ、付いておいでよオー

夕暮れの雨が降る 矢切の渡しー

親の心に そむいてまでも 恋に生きたい 二人ですー。

4年余り前の、お二人の婚約発表後に、小室佳代さんと元婚約者の金銭トラブルが発覚し元婚約者は「貸した」と言い、佳代さんは「あれは戴いたもので、借りたものではない。お金は払わない、お金を払えば、あれは借りたお金だと証明することになる」と言ったとか？ しかしこのトラブルは、今度解決金として払う事になりトラブルは決着したとのこと。

秋篠宮家と小室家は、小さな偶然かどうか？ 細い目に見えない糸で絡み付いているような因縁でつながりある様にもみえます。

圭さんのオッカさんは、1966年丙午の生まれです。写真で見る限りですが、相当厳しい顔付きをなさっているように感じられます。

ところが、なんと、眞子さんの母堂である秋篠宮妃殿下であられる紀子様も1966年お生まれなのです。お二人とも23才で結婚されています。そして同じように翌年、第一子をさずかりました。

それに紀子様の第二子のお名前は「佳子」様で、佳代さんと同じ字であるのです。これは単に偶然に過ぎないのか？ 何かの符号か？ 何か因縁じみたものを感じるのは、私ひとりでしょうか？ テレビで毎日新聞社の論説委員だったかが、盛んに小室母子を批判し「眞子様は絶対、幸せになれない」などと声高に話しておりましたが、眞子さんにだって「不幸せになる権利」はあります。

まさにお二人の結婚は「四面楚歌」の如くでしたが「街の小さな声」では、結構好意的な声も聞かれました。

見捨てないでね 棄てはしないよおー

北風が泣いて吹く、 矢切の渡しー

うわさ悲しい 柴又棄てて、舟に任せる 運命（さだめ）ですうー。

眞子さん 圭さんにとって前途多難な「令和の道行き」となりました。圭さんは司法試験にも落ちてしまい、今は来年2月の司法試験に賭けるとか？ 圭さんが司法試験に合格すれば、ニューヨークの法律事務所で働く事になり、そうなれば年収20万ドルが約束されるとか？ 眞子さんも博物館で学芸員として働くそうで、年収は10万ドルだそうです。

究極のお姫様であった、眞子様が圭さんと共に、共稼ぎでも無いでしょうが、一日ぼつねんと留守番しているより、アメリカで生活するのですから、アメリカ社会の勉強のつもりで、共稼ぎも又楽しからずや。

ニューヨークでは中央公園脇の元アメリカ大統領ケネデーの未亡人であった、ジャクリーヌさんが晩年をすごした高級アパートとほぼ同じ地区での新婚生活となりそうです。

何処へ行くのよ 知らぬ土地だよオー
揺れながら魯がむせぶ 矢切の渡しー
息を殺して 身を寄せながら 明日へ漕ぎ出す別れですうー。

お二人の未来に 幸多かれと 祈りながら



故大石哲也産業開発青年隊同窓会副会長兼沖縄朝霧会会長の 葬儀に参加して

産業開発青年隊同窓会会長 鈴木 浩明

去る令和3年10月22日、大石哲也産業開発青年隊同窓会副会長兼沖縄朝霧会会長がすい臓がんのため享年71歳でお亡くなりになりました。すい臓がんが発見され、余命3か月と告知されたそうですが、数か月間、病と闘われ、お亡くなりになりました。今回の国政選挙に際して、亡くなる直前まで、関係者の方々に連絡をとっていたそうです。大石副会長のお人柄を表すお話です。私は菅井事務局長より訃報をお聞きし、わが耳を疑いました。

ちょうど三年前の令和元年10月25日より沖縄朝霧会の総会に参加するために沖縄方面に出発しました。25日は昭和41年度の宮古島災害復旧の時、青年隊により建立された記念碑を見学するために宮古島にわたり、その当日沖縄に戻り、沖縄朝霧会に参加させていただきました。奇しくも10月25日は大石副会長の葬儀の日となりました。

昨年度、本年度はコロナの影響で沖縄朝霧会も、代表者会議も開催できませんでしたが、初の試みで、今年度令和3年6月19日の代表者会議はズームを用いての会議となりました。大石副会長の肉声を聞くことができた最後の機会になりました。まさかこれが最後になるとは思いませんでした。この時の声はいつものように張りのある元気な声でした。

そして7月9日、私との最後の交信であるメールが届きました。

鈴木会長様

お疲れ様です。義援金の件、意見を申し上げます。青年隊精神の継承は、よく理解しますが、災害が全国各地で起きており、すべてのところに、行うことはほぼ不可能と考えます。だからと言って、熱海に出して、ほかの地域は出せないとなったら、おかしいことになります。OB会費を集めるのも大変なのに、無理な考えは、おやめになった方がよいと思います。

----- x ----- x -----

ちょうど、熱海の土石流の被害が発生した時であり、同窓会として、義援金を贈りたいと代表者の方々にメールを送信しました。その時の返答です。一時の感情に流されることのない的確なアドバイスだったと思います。その後、九州に甚大な被害が発生しました。若い同窓会長ということで、いろいろな面でサポートをしていただきました。恩返しが何もできず本当にいたたまれない気持ちでいっぱいです。

10月25日、14時より15時まで告別式という連絡がありましたので、同窓会を代表して告別式に参加させていただきました。朝、4時に富士宮の実家を出発し、8時30分羽田発、11時20分沖縄着の飛行機に搭乗しました。13時頃に斎場に到着し、親族の方々にご挨拶をさせていただきました。その中で、会社（株式会社イーエーシー）は常務取締役のご子息大石 正明様が後を継がれるとご挨拶がありました。

予定より30分早い13時30分に開式されました。生花の数も50基以上あげられていたのではないのでしょうか。参列者も300人は優に超えるものでした。大石副会長の人徳の表れだと思います。そして18時10分沖縄発、20時35分羽田着の飛行機に搭乗し帰ってきました。帰り道は雨が降りまるで天が大石副会長と別れるのを悲しむがごときの惜別の雨のようでした。前々より、偶然にも青年隊の広報誌「開発青年」を読み返しておりました。

その中に、大石副会長が寄稿された文章がありますので、一緒に添付させていただきますと思います。今回の葬儀に関する記事とともに大石副会長を思い起こしながら、ご一読いただきたいと思います。この世の中は諸行無常、いつかは別れなければならないものであるとわかってはいますが、あまりにも早すぎる別れに悔しさを感じています。産業開発青年隊同窓会にとってあまりにも大きな痛手と感じます。

青年隊の理念を存続させることは何ぞやと問われれば、行動をし続けることとお答えします。多くの方々に、身をもって大切なことを伝えてこられ、実践してきた素晴らしい先輩が大石副会長だと感じています。

今後、会員の皆様方が、産業開発青年隊同窓会の活動に関心をもって、参加、ご協力いただくことが、大石副会長の一番の供養になるのではないのでしょうか。

合掌



弘法の筆は何を《誤った》のか？

「柿の種」（日本の亀田製菓の小せんべい）の袋に書いてある小話です。

《弘法も筆の誤り》は有名なことわざだが、いったい何の字を間違ったのかは意外と知られていない。

弘法大使が平安京の應(応)天門に設置する額に文字を書いた際、應(応)の字の「心」にひとつ点を入れ忘れてしまったそう。

設置の際に気づいた弘法大使はすぐさま額に向かって筆を投げて点をひとつ書き加えたのだとされています。



2022年の年明けに思うこと！

福岡県太宰府市 光森徳雄

コロナ禍で明けコロナ禍で明け暮れようとしている2021年、日本では懸念された東京オリンピック・パラリンピックが1年遅れで挙行された年でもあります。

幸いオリンピック・パラリンピックは或る意味では大過なく終幕し、多種多様な制約にも関わらずそれなりの目的が達せられた気がします。

さて、22年に思うことは、先ずコロナ禍が収束とはいかないまでも色々な行動制限が解除されて経済活動が再起動し、個人生活もパンデミック以前に戻ると好いですね。

ただ、個人的には渡伯できなかつたことが体力を考えると大きな心残りになりました。次の機会があるかの自信はありませんがリハビリ&ストレッチは続けてその時に備え続けていきます。

末尾ではありますが、皆様のご健勝をお祈りして併せてご多幸をお祈りいたします。



2回も「PCR検査」を受けた顛末記

在東京 7期 佐竹宗之

盆子原さんへ

最近新型コロナウイルス感染かと思われる「ヒヤット」した事がありましたので、その事を書かせてもらいます。10年使ってたiMacのパソコンがいろいろと「老化現象」を起こしてきたので、あと自分は5~6年は長生きするつもりですし、その間やはりiMacを使いたいと思いその新しいiMacで文章を作成しています。

9月12日（日曜）いつも日課にしてた、朝起きて血圧と体温を測りました。血圧は上が120、下が70と順調だったが脈拍が81と出た。普段の脈拍が60前後なのにどうしてかなとは思いましたが、後でわかったのですがこの日に身体に何らかの変調が来ていたのですね。それはあとでわかります。

体温は平熱の36度2分でした。当日の午後1時過ぎ頃になってなんとなく、珍しく若干気だるさを感じたので体温を又測る事にしました。というのはこの「コロナ禍」において、感染しないようにマスクの使用、三密を避ける、換気とかに色々気をつけるのは当然の対応だが、もし風邪の発熱等の症状があった場合我々高齢者は特に「新型コロナウイルス」の感染を心配しなくてはなりません。

それで体調がちょっとでも変だなあと感じたら体温の計測をすぐやるくせを当然ながらつけていました。測ったら38度もあるではないですか。計り直しても38度。まさかと思いながら1時間後に又測ったら今度は38度6分に。

びっくりしました。多少だるさをありましたが・・・さらに1時間後測ったら今度は38度ジャスト。新型コロナウイルスにかかったのではないかと内心ゾッとしました。

でも新型コロナ感染者の症状の咳、息切れ、嘔吐、下痢そして嗅覚・味覚異常は全然ないので、ただ体温が高いだけなので風邪の一種かなと思ったが、近くに住んでいる子供達に連絡したら、2回ワクチン接種しているので新型コロナの症状が軽く出ている可能性があるのではとイヤな事言うのです。

そして午後4時頃に又測っても体温もやはり38度なので、これは本当にヤバイと思い娘に日曜の午後なので大部あちこち電話かけまくって、苦勞かけたようでやっと開院している病院を探してもらい、タクシーで隣の江戸川区の病院で診てもらいました。

すぐパルスオキシメーターで測った血中酸素濃度は97%、問診で呼吸器系統の症状は心配ないようだが高熱が続いているようなので念の為PCR検査を勧められたので受けた。そして熱を下げる薬「コロナール錠500」をもらい帰宅しました。

その夜はその薬を飲んでも熱は相変わらず37度～38度。そして汗をびっしょりかいて寝巻きを2回取り替えました。今までの経験から、あ～これは風邪だなと自分に言い聞かせ、買い置きしていた「ツムラ漢方内服液葛根湯」何本かを飲んだが翌朝になっても熱は中々下がらない状態で37度～38度。こんな状態で13日(月曜)はまんじりとせず過ごしPCR検査の結果を待ちました。

PCR検査を受けた江戸川区の病院は自前での検査設備は無く、外部に委託する関係で結果が判るのは14日の火曜と言われていたが、家族は2回のワクチン接種により症状が軽く済んで「新型コロナウイルス」の感染の可能性があるかもと、心配していろいろ電話で指示して来た。

家の中でもマスクは常時はつけ、部屋は仕切り等で別々の完全別居、換気はこまめにし、トイレ使用後の手洗いタオルは別々、食事は黙食、食後の食器は熱湯で殺菌、お風呂は最後にあとで入るとか、いろいろ指示があった。

念のために、コロナ感染者になった場合の備えであった。そして14日(火曜)の10時頃に待っていた電話がやっと入り、(陰性でした)との連絡であった。やっとの思いで良かったと思ったが、しかしコロナール錠500飲んでも、相変わらず熱は37度後半だ。

すぐ近くのかかりつけ医に電話して、日曜からの2日間の様子を話したらすぐ病院に来るようにと言われて行った。すぐ別室に案内され、体温を測り採血をされる。まもなく主治医の診察を受けた。

採血の結果の中で、そのかかりつけ医内の設備で分かる項目の数値や、問診等から「新型コロナウイルス」かどうか、はっきりと分からないと言われた。ただ「一昨日の午後に発熱してから PCR 検査を受けた時間の間隔が短いので、コロナ菌が動きまわる前に PCR 検査を受け、菌をキャッチ出来なかった可能性が考えられ、それで1回目の PCR 検査では「陰性」と出た可能性があるのではと。

高熱が未だに続いているのでもう一度 PCR 検査を是非受けて下さいと言われてすぐ【江東病院】に手配してくれた。この病院は人口 52 万のこの江東区内では大学系統の病院を外せば 1、2 の大きさの病院で PCR 検査の結果もすぐ判断出来る設備を持っていて、かかりつけ医の紹介状を示して、その病院で PCR 検査を受けた。

ここ二日間の状況はかかりつけ医の紹介状に書いてあったのかあまりしつこくは聞かれなかったが、日曜に受けた PCR 検査の時は片方の鼻腔に綿棒を挿しての検査だったが、この江東病院は両方の鼻腔に綿棒をさしての検査だった。検査した男の先生が「検査の結果を 2 時間後には連絡しますので電話番号を教えてください」と言われたので、固定電話番号をいうと、「どなたか同居の方がいらっしゃいますかと」言われたので「はい」と答えると、「出来たらあなたの携帯電話を教えてください」と言われたので自分の番号を伝えた。

これは「個人情報保護」の面での配慮だとすぐ分かりなるほどこういう病名についてのお医者さんの気配りはすごいと思った。そして 6 時ちょっと前に私の携帯電話が鳴った、「佐竹宗之さんでしょうか」と言われたので「はい」と言う。「先ほどの PCR 検査は陰性でした。結果については紹介状を書いた先生にも手紙で知らせておきます」言われ、イヤ～ホッとしたが、しかし未だ熱は 37 度台を上がったり下がったりしていた。熱がほぼ完全に平熱になったのは発熱してから 4 日後の 15 日の午後だった。

しかしこの 4 日間は多少のだるさはあったが食欲もまあまああったし、咳はしないし、喉の違和感もないし、鼻水も出てないので風邪ではないし一体なんだったのだろうか。家族は完全に「新型コロナウイルス感染者」扱いでいろん

な指示でてんてこ舞いの4日間だった。やっと心身共に落ち着いて、かかりつけ医に行く機会があったので、あらためてあの4日間の高熱は何だったのかを聞いた。

14日にかかりつけ医内で採血を受けた結果のうち、外部の検査機関に出したある項目の結果表を見せてくれた。「CRP」の数値が基準値の実に20倍の数値があってこれが悪さをして熱を出させたのではとの答えでした。

この「CRP」とはこの世界（空間）にはたくさんのウイルスや細菌や真菌が徘徊してるのだが、そのうちのあるものが「悪さをして、高熱を出した」と思われますと。幸い佐竹さんは割と健康体なので高熱だけで、しかも数日で済んだのですと。先生の説明に完全に納得した訳ではないが、体調は平熱に戻り、食欲も完全に戻っていたのでやっとホッとした次第だ。

顛末は家族にも勿論伝えた。さて余談ですが先日10月9日に私は満80歳になりました。別名「傘寿」です。又この機会に私の名前が「宗之＝ムネユキ」と付けたかの経緯を書きます。10月9日が誕生日ですがこの日は仙台市の青葉区にある青葉神社の秋季例大祭の神事が執り行われる日なので、親はそれにあやかってつけたそうです。

伊達政宗は寛永13年（1636年）5月24日に今の東京の日比谷公園にあった仙台藩桜田上屋敷で亡くなり、仙台市の霊屋にある瑞鳳殿に眠っておりますが、青葉神社は1874年、伊達政宗【神号・武振彦命（たけふるひこのみこと）】を祭神として創建された神社で、その伊達政宗が中納言に任命された日を新暦に換算した10月9日に秋季例大祭として神事が催されるとかで、それにあやかって政宗の宗を取って「宗之」と付けたと、お袋から聞いております。一度例大祭の神事に出席したいと思っておりますが、来年は是非出席するつもり。それから80歳になった機会に運転免許証も返上しました。



我慢と友情

サンパウロ 石井久順（ボーイスカウト）

南青協便りに私の拙い文章を掲載して頂きありがとうございました。文章を読まれた青年隊の皆様からご連絡など頂き、もう一度過ぎ去った日々を懐かしく思い返しています。私達は年老いてきていますがこのブラジルで力いっぱい生きてきた証を記す事は大事だと思いもう少し書かせていただきます。

誰にでもあった事かと思いますが、すでにブラジル 4H クラブ協会会長宮本邦弘さんに「戦後移民の新来青年は？」と馬鹿にされ林茂夫先生の夢で会ったクラブ員を、日本へ派遣することで石井久順指導員の計画も一時は頓挫しかねなかった事、たしかに我慢しました。頭っから拝啓天皇陛下様か？びっくり仰天して会議にならず、悔しかったです。

サンパウロ中央会農協専務橋本正敏さんの助け船の発言、「やって見なければわからない、石井君やってみなさいよ！」。

元気づけられ前に書いたような結果になって大成功を収め、4クラブの林先生の夢を叶え、クラブ員一同にも大好評で、その後10回即ち十年に渡り日本への研修事業は続いたのでした。その数年後私が神奈川県人会会長をピンチヒッターとして、しなければならなくなりました。

勿論俺も協力するのでどうですかと。仕方なくそうまで阿部一郎常務に言われたら、阿部さんに旅行社で働いて下さいとお願いして、引っ張り込んだ義理もありOKしたのでした。勿論落選したらそれまでですね、との念を押しての立候補でした。

そうして土曜日の選挙日、私は仕事で朝早くからコンゴニア空港での接客の仕事で、少々遅れて会場に到着したのでした。勿論ご挨拶はさせて頂き、総会の議事日程も済み、いよいよ会長選挙になったのでした。ああ内心はそうそうたるメンバーが立候補していて、これなら大丈夫私は落選できる!?と思ったのでした。

ところがハイパーインフレの大風がブラジル中、又日系コロニアにも吹き回り、各県人会もその経営難に四苦八苦、そこに県人会連合会より突然電話があり田村事務局長より是非相談したい事ありますから、神奈川県人会会館にお邪魔したいとの事、我々も役員一同に話しをして日を決めて一行6名をお迎えしたのです。

驚く事にあの数年前に小生がいじめられた宮本邦弘さん(大分県人会会長)が、その中のメンバーの中心とか、冒頭の挨拶で「私は石井会長とは親しい関係でして」とまったく反対の事をスラスラと、しかしまだまだ先がありだからと笑って我慢をしたのです。

この時、阿部一郎副会長は石井の顔をチラチラと見ながら「あのころの敵も、愛して我慢し協力してやろう！」です。秦野生の役員は若い者ばかりだ。ブラジルの工業界で活躍して居る技術者ばかり、ケンケンゴウゴウ多数の意見がぶつかり合い素晴らしい会議でした。

即ち「県連を維持するに必要経費は？」と約3時間賢明に議論してもらい、議長の私が其の総合意見をまとめ、各県人会が応分の寄付金を納めることになったのです。ハイパーインフレと競走し勝つだけの金額捻出の案件は、神奈川県人会が考え出し、県連に協力したといっても過言ではないでしょう！新来青年も1970年代になるとそろそろ日系コロニアの後継者、リーダーの仲間入りとなって来たのです。

我慢を重ねその上に強く友情を分かち合う人になろう！スカウターなら、役に立つ人になれ、で実践出来たことに対し嬉しく感謝して、ありがとうございました。

神奈川県人会は県知事が「安らぎの場所を！」と、移住者達の為にサンパウロ市より75km、北ブラガンサ・パウリスタに農場を買ってくれたが、それが問題の火種に私が会長になる前からあったが、県人会会館維持問題で日夜会員募集と戦っている最中に神奈川県は移住事業団JICAと結託し身売りする計略

を進めている策を、農場で働く者が知り、早速私に連絡が入り、阿部副会長と相談して県人会は、緊急役員会議を招集した。

結果はいつでもそうだが、サンパウロの出先支部では「本社本部に問い合わせる」との返事で、きまり文句で時間稼ぎ策、会長に一言でも、どうして相談してくれなかったのか？ それに対しても同じ返事、私は役員一同の意見をまとめた結果、多忙ながらも神奈川県庁に行き知事に直訴してほしいと言うので、会社の仕事を兼ねて日本へ飛んだのでした。

ちょうど当時大蔵大臣が友人の橋本龍太郎さんでしたからおめでとうの一言ぐらいと連絡し、神奈川県庁中洲知事に会いに行く事を大臣秘書に伝えて出かけたのでした。神奈川県知事秘書室で待つ事30分、お茶一杯出ず、秘書の話では知事は接客中とか。しかし私は「ブラジル国を出る前に連絡してあるのですが、要件はブラジルサンパウロにある農場の件です。」

私は中洲知事が知事になる前、大学の教授時代に潮(ウシオ)という雑誌に投函して、海外に進出している社員とその国の人達との交わり等、素晴らしい論文を読んでいるので、この対応にはちょっと落胆したのでした。とドアが開き総務佐藤部長が対応「要件は私が担当していますから」、そこに突然秘書課長が飛び出て来て、あのブラジルの石井さんですか、今東京の大蔵大臣秘書課長よりの伝言で、できるだけ早く大臣が逢いたいとのこと、様子がいっぺんに変わって「是非、昼食だけでも！」待ってください、その農場問題は、「石井会長さんそれは元に戻し白紙にしますから」、それなら文書にしてほしいと伝えたのでした。又昼食は時間がないのでと断ったのでした。それなら車を、いやそれより電車の方が速く行けますから、ならば桜木町駅までとお言葉に甘えて、桜木町駅まで知事の車で送ってもらったのでした。

一件落ち着いたがこれは橋本龍太郎大臣のお陰でした。それにしてもブラジル神奈川県人のために役に立ってよかったです。

スカウターとして役に立つ人になれ、感謝しありがとうございます。



シャギーニャ没後200周年祝う 東洋街多文化共存で 観光コースを ニッケイ新聞2021年10月5日号から転載

本紙ビル 敷地はもともと 黒人奴隷の墓地

本紙編集部がある「エディフィシオ・ジアリオ・ニッパキ」（日伯毎日新聞ビル）の場所は、160年ほど前まで処刑された黒人奴隷の墓地だった。

だからビル建設当時、基礎工事をするために地下を掘り返したら骨がザクザクでてきたという話は古参記者から何回か聞いた。おまけに「編集部で徹夜している時に黒人の幽霊をみた」「どこかから泣なくような声を聞いた」という人までいた。

今でこそ「日本人街」「東洋街」と言われる地区の一角だが、かつては「アフリットス墓地」と言われた。具体的には、リベルダーデ日本広場横の教会から東洋会館までのリベルダーデ大通りを一辺とし、リベルダーデ日本広場からエステダンテ街を降りてグロリア街までの一角だ。

実は当時の名残が今も残っている。墓地の中央部分にあったカペラ・ドス・アフリットス（capela dos Aflitos、苦悩する者たちの礼拝堂）だ。どこの墓地でもよく真ん中付近にある礼拝堂が、それだ。

エステダンテ街を降りていくと、中程に右側に曲がる道があり、どんずまりにその礼拝堂がある。街路名もそれにちなんで Rua dos Aflitos（苦悩するもの街）だ。

この礼拝堂が建てられたのは1779年、242年前と古い。リベルダーデに現存する最古の建築物だろう。

アフリットス墓地が作られたのは1775年だからさらに古く、1858年まで使われていた。ここが手狭になって1858年にコンソラソン墓地が新設され、こちらは使用停止になった。礼拝堂は編集部のちょうど裏側にあたり、直線距離にしたら5メートルもない。2000年頃まではロウソクを燃やす臭いが時々していたが、いつの間にかすっかり活動を休止した。

9月17日昼過ぎに突然、黒人ジャーナリスト、とジョズマル・タデウさんが飛び込みで編集部に来て、「この週末から月曜日にかけて、シャギーニャ没後200周年のイベントやるから取材に来てくれ」と依頼してきた。シャギーニャ（本名 Francisco José das Chagas）とは久々に聞く興味深い名前だと思って話していると、20日が200周年だということでミサを取材し、関係者と話をした。

ミサ当日、カペーラには来賓のアフロ系団体連合会 (Confederação Nacional dos Entidades Negros) のサンジョセ・ドス・カンポス支部のファブリシオ・オガン会長も緑色のアフロ服で 参加していた。

ミサの最後には、真っ黒い十字架を手にした 女性を先頭に、首つり縄をもった信者が続き、それを神に奉納するという、非常に印象的な光景が繰り広げられた。



200 周年ミサの最後には、黒い十字架と首つり縄を祭壇に奉納した



カペーラにあるシャギーニャの扉
に祈りを捧げる信者



200 周年ミサの様子

「首つり広場」が「リベルダーデ広場」に

聖市のリベルダーデ地区は18世紀から19世紀にかけて、自由を手に入れた一部の黒人奴隷が、セー地区を中心とした当時の繁華街のはずれとして定住するようになった地域だ。

聖州歴史サイトによれば、1872年当時でも聖市の人口はわずか3万人余り (<http://smul.grafico/1872.php> br/historico_demo prefeitura.sp.gov.)

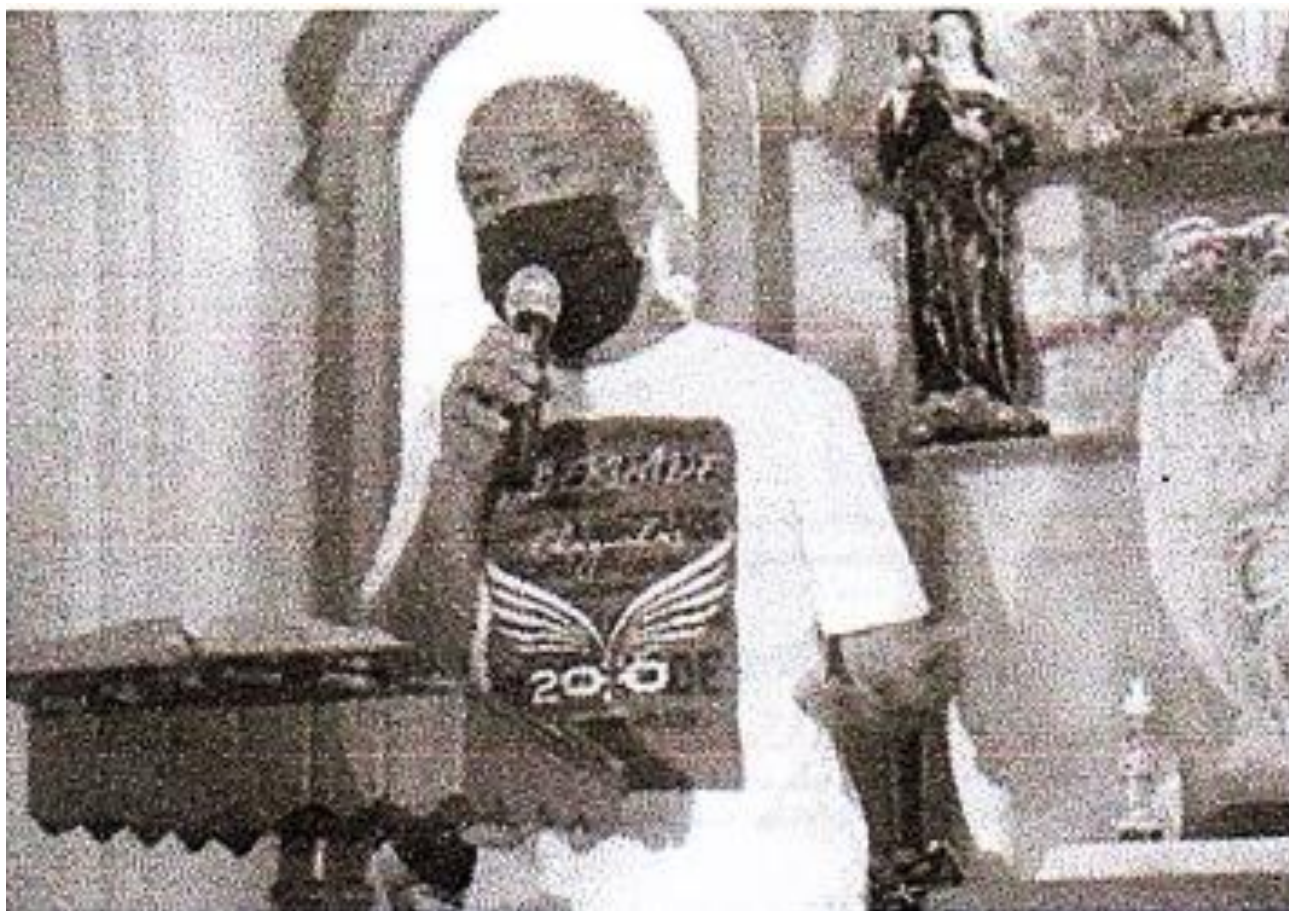
今のように巨大都市化したのは、外国人移民導入によるコーヒー産業が勃興した1900年以降だ。

発展前、セー教会（現在の大聖堂の前身）からパチオ・デ・コレジオ、サンベント僧院を結ぶ三角地帯が当時の宗教都市サンパウロの中心地だ。

その南側、裁判所の裏側で日陰となる場所が、当時の自由黒人の居住区になった。南半球にあるブラジルでは、北から陽が当たるので北向きに立つ建物が多。

今でも、地方都市に行くと中心部に教会が北向きあり、その正面が公園になっていて、その周りを市役所や議会、商店が取囲んでいる。教会の南側、裏側には娯館、ポアッチが立っていることが多かった。

現在、セー大聖堂の横には聖州高等裁判所の立派なヨーロッパ風建築物がある。そこは当時から裁判所があり、農場主に反抗したり、盗んだりした黒人を裁いていた。死刑が宣告されると、その南側がペロウリーニョ（犯罪者を晒す場所）になっていた。現在は9月7日広場(Largo 7 de Setembro)と呼ばれる。そこに拘束されたまま数日間晒された後、さらに南側にあった首つり広場(Largo da Forca)に連れてこられ、そこで処刑された。それを埋葬したのが「アフリットス墓地」だ。その首つり広場がのちに「リベルダーデ広場」(現在のリベルダーデ 日本広場)になった。



ミサで祈りを捧げるタデウさん

下はカペーラに奉納されているシャギーニャの絵。



カペーラドスアフリットスの入口

シャギーニャの奇跡

シャギーニャは200年前に、そこで首つり処刑された黒人系軍人とされている。彼は「カサドレス部隊」と呼ばれる陸軍分隊に所属していた。だが、給与支払い遅滞（ポルトガル軍と同等の給料を主張したという説も）などを理由に反乱を起こしたリーダーの一人だった。軍人の反乱は重罪で死刑が宣告された。

1821年9月20日、彼が広場で絞首刑に処される際、当時の習慣として群衆が集まっていた。他の人が同じことを繰り返さないようにするための見せしめだ。

そこで思いがけないことが起こった。首つりのロープが切れて死ななかったのだ。やり直したら2度目もロープが切れたことから、群衆はこれを「神の奇跡」だから、シャギーニャを無罪「自由にしろ！ Liberdade！」と合唱を始めたという。だが執行人は容赦なく木の棒でシャギーニャを撲殺し、その死体は「アフリットス墓地」に埋められた。タデウさんは「これが後にリベルダーデ広場と呼ばれるようになった由来だ」と強調する。

従来は、絞首刑される黒人奴隷に対して「死んで魂だけでも自由になれ」という意味でリベルダーデ広場と名付けられたと言われることが多かった。

実際、サルバドールやベロ・オリソンテなど、やはり死刑執行場だった場所が「リベルダーデ広場」と名付けられているからだ。だが、シャギーニャを信仰する人たちから聖市だけ違う解釈がされている。これはこれで歴史的に興味深い現象だろう。

「シャギーニャのドア」を3回ノックして祈る

タデウさんは続けて、「シャギーニャは首つり台に連れて行かれる直前、カペラ・ドス・アフリットスで待機させられた。名前を呼ばれて死刑台に向かう前、通り抜けたドアが今も残されている。シャギーニャを聖人と慕う信者らは、このドアに願いことを書いた紙を挟み、3回ノックをすると叶うと信じられている」と説明した。

実際200周年ミサの最中、そのドアに願いことを挟んでノックする人の姿が次々に見られた。

シャギーニャの首が2度失敗した事件は当時、「神の意思を示す奇跡ではないか」と多くのカトリック教徒を感動させた。だから首つり台の横に、彼の名誉のために「絞首刑の聖十字架」として知られる十字架を設置した。

後に、その十字架の跡地に1887年、Igreja Santa Cruz das Almas dos Enforcados（絞首者の魂の聖十字架教会）が建てられ、その魂に祈るためのロウソクが今でも延々と点されている。これがリベルダーデ日本広場横に立っている教会の由来だ。

だから今でもその教会の前では、黒人が多いバイア州の風俗であるバイアーナの格好をした女性が花を売ったり、同州名物アカラジェを作って売っていたりする。

だが200年前の黒人、現在の東洋街というイメージのギャップは激しい。その流れの中で、日本移民110周年を記念して2018年7月18日、故ブルーノ・コーヴァス市長が広場名称を「リベルダーデ広場」から「リベルダーデ日本広場」に変更することを承認したことに對して、シャギーニャ信仰の強い人たちは強い反発を覚えている。

タデウさんは「リベルダーデ日本広場に名前を変えたことに関する公聴会を開くように市に働きかけている。名称変更からは我々黒人の歴史を軽視した

印象を受ける。もっと尊重するべきではないか。むしろリベルダーデ・シャギーニャ広場に変えたい」と明言した。

さらに2018年後半にガルボン・ブエノ街に中国人が新商店を建設するために工事を開始したところ、埋葬された黒人の骨が次々に出てきたことで、一気にその動きが強まった。同年12月ごろから、骨が出てきた一角に「アフリットス資料館を建てよう」とする望みが高まっている。

歴史があまりないブラジルにおいて、リベルダーデ地区だけは200年前からの逸話に彩られた特殊な場所だ。しかも、とても豊かな歴史エピソードだと感心する。

対立や軋轢から対話と強調、多文化地区観光に

日系人に歴史があるように黒人にもある。今は韓国人も、中国人もここを舞台に歴史を刻みつつある。リベルダーデという場所は「幾重にも重なった歴史」自体が魅力ではないか。ここが重層的、多元的な魅力を発信する場になれば、さらに観光地としての話題は尽きなくなる。

エスピリトサント州に欧米初の大仏を作った禅光寺（ビッチ大樹住職）は、四国の88カ所巡りから着想を得た「巡礼の道」というツアーを実施している。仏教寺院はここしかないから、近隣のキリスト教会と組んで市内23カ所の宗教施設を5日間かけて巡るもの。

巡礼用に「パスポート」を発行して、巡った個所のスタンプを捺せるようになっており、全て巡ると修了書も取得できる。外国からの参加者がいる好評ぶりだという。

そこで、リベルダーデ区周辺の多文化巡回観光ルートを作ったらどうかと思った。回った地点のスタンプを捺して、抽選で商品券が当たるなどのキャンペーンも展開できる。

この近辺には宗教施設だけでもセー大聖堂、日系に縁の深いサンゴンサーロ教会、曹洞宗仏心寺、台湾系仏教寺院の如来寺、下町のグリセリオ街方面まで足を伸ばせば韓国系プロテスタント教会、ペンテコスタル系「神の愛教会世界本部」（Igreja Pentecostal Mundial Deus é Amor - Sede）、シリア難民のキリスト教会など実に多彩なものがある。

文化関係ならサンジョアキン街の文協ビル内の裏千家お茶室や日本移民史料館、サンパウロ台北文化センターなどはもちろん、ソゴウ・ビル内の漫画アニメ店も面白い。

さらに文化活動の練習風景を見るなら、丹下セツ子太鼓道場の練習場、藤間流日本舞踊学校、中国獅子舞の練習場、広島県人会の神楽練習場、沖縄県人会館の三線練習場、海藤三味線教室などは時間を合わせていけば、それぞれに興味深い様子が見られるはずだ。レストランだって日本食各種、ケーキや菓子パンのカフェやタピオカミルクティ、リベルダーデ日本広場のフェイラ、中華料理、タイ料理、韓国料理、シリア料理など数え切れない。

ニッケイパラセホテルの最上階サロンやイベントスペースなどで日本舞踊や琉球舞踊を始め、広島神楽や沖縄獅子舞を見せたり、民謡を聞かせる日本文化イベント、さらには中国獅子舞、韓国舞踊も招待してショー付きディナーを定期開催してもいいのではないか。これだけ多彩なものが1地区で見られる場所は、ブラジル広しといえどあまりない。

多言語対応のガイドも育成したい。ポ語、英語、日本語、中国語、韓国語などでも説明できるガイドがいれば、外国人観光客にも対応できる。

これはちゃんとコーディネートすれば立派なビジネスになる。しかもお互いにとって利益になる形にできるはずだ。

東洋街には、いろいろな民族や文化がこの狭い一角にひしめいている。それを放っておいて対立や軋轢を生むのではなく、対話と協調を重ねるなかで活用する方向にいけないだろうか。ブラジルらしく宗教や国籍、文化の垣根を超えた多元主義的な取組を、リベルダーデ文化福祉協会（ACAL）や文協などの日系人が主導したら、きっと皆から感謝されるのでは。（深）



あらゆる願望、幻想をのみ込んできた...天下取りの名刀「義元左文字」の底知れない魅力

転載：読売新聞 2021/10/13 調査研究本部 丸山淳一

刀剣ブームが続いている。熊本のテレビ局に赴任していた時、阿蘇神社に伝わる幻の宝刀「蛭丸」（ほたるまる）の復元プロジェクトを取材して、そのすごい人気に驚いた。蛭丸の不思議な物語については過去に取り上げた（こちら）が、オンラインゲーム『刀剣乱舞』に登場する刀を擬人化したキャラクターのファンになり、刀そのものにも興味を持つ若者が一気に増えた。



重要文化財 刀 金象嵌銘 永禄三年五月十九日義元討捕刻彼所持刀／織田尾張守信長（名物義元左文字）南北朝時代14世紀 京都・建勲神社所蔵

最近『鬼滅の刃』ブームも加わって、鬼（酒吞童子、しゅてんどうじ）の首を刎（は）ねた刀という伝説がある「童子切安綱」（どうじぎりやすつな）なども注目されている。刀剣ファンには、それぞれが好きな「推し」の刀があるようだ。

三英傑が愛した「天下取りの刀」

刀の審美眼はない筆者にも「推し」の刀はある。「義元左文字」（よしもとさもんじ）だ。駿河（静岡県）守護で「海道一の弓取り」と呼ばれた武将、今川義元（1519～60）が所持したのが名前の由来。永禄3年（1560年）の桶狭間の合戦で義元を討ち取った織田信長（1534～82）が奪い取り、天正10年（1582年）の本能寺の変の後に豊臣秀吉（1537～98）の

手にわたり、関ヶ原の合戦の翌年、慶長6年（1601年）に徳川家康（1543～1616）のものとなる。3人の天下人が所有した華麗な来歴から、「天下取りの刀」の異名を持つすごい刀だ。

作者の左文字は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて筑前(福岡県)の博多で活躍した刀匠だ。相模（神奈川県）で名匠の正宗（生没年不明）から技を学び、筑前に戻る際には正宗が別れを惜しんで服の左袖を引きちぎって渡したという伝説がある。それ以来、銘に「左」の字を切り、弟子の刀匠集団は「左文字派」と呼ばれたという。

刀がつくられたのは信長が所有する200年ほど前とみられ、義元の前にも所有者がいたはずだ。これだけ有名な刀なのだから、さぞ華麗な来歴があるのだろうと思いきや、これがよくわからない。『名物録』（第1類）には、刀の長さ（2尺2寸1分半＝約69センチ）と、信長が桶狭間で義元から奪い、刀に自らの名前を彫らせたことしか書いていない。それより後に書かれた『名物録』（第2類）に、ようやく以下の記載がある。

義元

三好左文字

宗三

磨上 長貳尺貳寸壹分半 無代

三好宗三所持武田信虎へ遣ス義元へ伝、信長公之御手ニ入彫付表中心樋之内ニ永禄三年五月十九日平ニ義元討取之刻彼所持之刀裏平ニ織田尾張守信長ト有之信長公御所持之時失ル、後ニ秀頼公之御物ニ成ル 家康公江被進、表裏樋有之

この記述通りなら、義元左文字は「三好左文字」「宗三左文字」の別名が示す通り、もともと三好政長（宗三、1508～49）が所持し、政長から甲斐（かい、山梨県）の守護、武田信虎（1494～1574）に贈られ、信虎が義元に贈り、信長が義元から奪い、秀吉、家康へと渡ったことになる。だが、いつごろ、どういう理由で刀が贈られたのかは記されていない。

桶狭間で義元から信長に



武田信虎画像(法体、東京大学史料編纂所所蔵模写) 三条の方(円光院所蔵)

政長は、摂津（大阪府）守護で室町幕府の管領も務めた細川晴元（1514～63）の重臣だった。晴元の妻は公家の三条公頼（きんより、1498～1551）の娘で、信虎の息子の武田晴信（信玄、1521～73）に嫁いだ三条の方（1521?～70）の姉でもある。左文字は天文5年（1536年）の三条の方の輿入れにあわせて、政長から信虎に贈られたのではないかと、いわれている。

信虎が義元に贈ったのは、信虎の娘（定恵院 じょうけいいん、1519～50）が義元に輿入れして甲駿同盟が成立した天文6年（1537年）か、信虎が晴信に追放されて駿河に身を寄せた天文10年（1541年）ではないかという見方が多い。信長が手に入れる前の左文字は、政略結婚や同盟の引き出物として戦国武将の間を行き来していたらしい。

桶狭間の合戦に勝った信長が左文字を召し上げた経緯と、所有者（信長）の名前は、刀にじかに彫られている以上、間違いないだろう。



桶狭間の合戦で刀を手に戦う今川義元（『大日本歴史錦絵』国立国会図書館所蔵）

『名物録』（2類）以外の史料にも「義元秘蔵の名刀、左文字の刀を召し上げ、何度も試し切りをして、常に差すことにした」（『信長公記』首巻）「信長は2尺6寸（約80センチ）あった刀身を2尺2寸1分半に磨き上げた」（『徳川実記』）という記述がある。信長がこの刀を気に入って、佩刀（はいとう）にしていたという話には、一応、史料の裏付けがある。



そうすると、左文字が所在不明になったのは、天正10年（1582年）の本能寺の変でのことだろう。刀は本能寺とともに焼けてしまったとみるのが自然だが、その後、豊臣秀頼（1593～1615）の所有となっている。

秀頼は秀吉から相続したのだろうが、秀吉の蔵刀を実写した『光徳刀絵図』（毛利本）には義元左文字は含まれていない。しかし、秀頼から家康に渡ったというのは信じていいだろう。一時期、豊臣家が所有していたことは間違いない。

徳川家康（『大日本名将鑑』）

家康以降の左文字は徳川将軍家に引き継がれ、明治になって徳川家当主の家達(いえさと、1863～1940)から京都の建勲神社に寄進されている。

明暦3年(1657年)には明暦の大火で焼けたものの、再生された。家康以降の来歴は史実と見ていい。

華麗な来歴に潜む違和感

以上をまとめると、政長→信虎→義元→信長→秀吉→秀頼→家康という華麗な来歴のうち、はっきりした裏付けがあるのは「義元→信長」と「秀頼→家康」以降ということになる。『椿井文書—日本最大級の偽文書』(中公新書)を書いた大阪大谷大学准教授の馬部隆弘(ばべ)さんは、義元左文字の来歴を遡り、「名物刀剣『義元(宗三)左文字』の虚実」という論文で、不確かな部分の矛盾を指摘している。

まず、政長→信虎について馬部さんは、三条家の姉妹の縁でつながるのは細川家と武田家であり、政長と信虎の接点はないのに、晴元の家臣が信虎に刀を贈るのは不自然だと指摘する。また、義元に左文字が渡ったのは、政長が初めて「宗三」を名乗った天文11年(1542年)より前となるが、ならば、なぜ「政長左文字」ではなく「宗三左文字」の別名が定着したのか、と疑問を呈する。

「義元左文字」の変遷と関連するできごと（仮説も含む）

三好政長	大永7年 (1527)	政長が桂川原の戦いで武田元光を破る
武田信虎	天文5年 (1536)	三条公頼の娘が武田晴信（信玄）に嫁ぐ
	6年 (1537)	信虎の娘（定恵院）が義元に嫁ぐ
今川義元	10年 (1541)	信虎、甲斐を追放され義元のもとに
	11年 (1542)	政長入道し、宗三を名乗る
	18年 (1549)	政長が江口の戦いで敗死
織田信長	永禄3年 (1560)	桶狭間の戦い後に勝った信長が召し上げ
	9年 (1566)	信長が尾張守を通称とする
	11年 (1568)	信長が弾正忠を通称とする
	天正10年 (1582)	本能寺の変で左文字失われる
豊臣秀吉	文禄元年 (1592)	京都・松尾大社の神官が秀吉に献上
豊臣秀頼	慶長3年 (1598)	秀吉死去
徳川家康	6年 (1601)	秀頼が家康に贈呈
⋮	明暦3年 (1657)	明暦の大火で焼身となり越前康継が再生
徳川家達	明治13年 (1880)	京都船岡山に建てられた建勲神社に寄進

義元→信長の経緯は史実とみていいが、桶狭間の合戦当時、信長は上総介（かずさのすけ）の通称を用いており、刀に彫られた尾張守（おわりのかみ）の通称を用いたのは永禄9年（1566年）から約2年間だけで、馬部さんは、信長が刀を手に入れてから6年以上も銘を彫らなかったことに違和感を覚えるという。

本能寺の変で信長と運命をともにした？

最も不可解なのは本能寺の変以降、信長から秀吉に渡った経緯だ。文化庁の国指定文化財等データベースには「信長が銘を入れた後、松尾社の神官に渡り、秀吉に献上」されたとある。しかし、松尾大社の神官の話が登場するのは最近のことで、どの史料に記載があるのか、実はよくわからない。にもかかわらず、「本能寺に松尾大社の神官の娘がいて、脱出する際に信長の枕元から持って逃げた」という話まで流布している。当然明確な資料の裏付けはなく、眉唾としかいいようがない。



本能寺で戦う織田信長（月岡芳年『大日本名将鑑』）

信長の孫とともに葬儀に出席した秀吉（『大日本歴史錦絵』国立国会図書館蔵）



馬部さんは、義元から信長に渡った義元左文字は本能寺で焼失し、今ある義元左文字は秀吉かもしくはその周辺の人物が、別の左文字に「織田尾張守信

長」の銘を入れさせたのではないか、という仮説を発表している。信長はほかにも左文字の刀を所有しており、その中には政長とともに晴元に仕えた 垺和道祐（はがどうゆう）が所有していた「道祐左文字」もあった。信虎は入道後に「道有」（どうゆう）を名乗っており、政長→信虎の来歴は同じ「どうゆう」が取り違えられたのではないか、というわけだ。なるほど、それなら信虎が不自然に来歴に登場するのも、上総介信長が尾張守信長の銘を彫らせた違和感も説明できる。

だが、京都国立博物館工芸室主任研究員の末兼俊彦さんは、「仮説はあくまで仮説でしかない」という。「そもそも刀剣の来歴にはあいまいなものが多く、来歴の典拠を探っていくと、どこにもないというのは珍しくない。〇〇という古文書に××と書いてある、ということがすべてだ」という解説も、その通りだろう。

馬部さんの指摘する疑問点についても、政長より宗三の名前の方が知られていれば、後世に「宗三左文字」の別名がついても不思議はないし、大量の刀を奪い合っていた戦国時代には銘を刻む職人が忙しく、刀に銘を刻むまで6年かかってもおかしくはない。来歴の尾ひれをただすつもりで、別の尾ひれをつけてしまう恐れがあることは馬部さんもわかっている、自説は「試論」と位置付け、「刀の由緒を^{うの}鵜呑みにする現状への問題提起に主たる眼目がある」と記している。

さまざまな伝承をのみ込む名刀の度量

刀剣ブームは昭和40年代にもあり、この時は刀は投機の対象にもなった。値をつり上げるためにさまざまな来歴がでっちあげられ、刀剣研究家を称する人も少なからずこれに加担したとされる。



義元左文字 茎の部分の金象嵌

ゲームやアニメから始まった今の刀剣ブームに眉をひそめるオジサンたちの 蘊蓄(うんちく)も、く) 決してあてにならないわけだ。

文献史学や美術工芸史からの考察が十分進んでいないところに眉唾な話が加わって虚実がないまぜになったまま、またブームがやってきた、というのが現状ではないか。

「しかし、それでも名刀とされるものには、さまざまな伝承をのみ込む度量がある。天下人が所望した、あの武将があの合戦で使ったなどの歴史的価値や、美的観点からも、人々の願望や共同幻想を受けとめられるのが名刀だ」と末兼さんはいう。確かにじかに義元左文字を見ると、ただその存在感に圧倒される。細かい矛盾はあるにせよ、あの信長の腰にあった、あの家康が見入った、という来歴があるだけで、刀の輝きがひとときわ眩(まぶ)しく見える。明暦の大火に遭遇したため、とされる彫りに施された金の象嵌(ぞうがん)の溶け落ち部分を見つけて思わず「おおっ!」と声が出て、「よくぞ今まで残ってくれた」と思ったのは、筆者だけではないはずだ。

主要参考文献：馬部隆弘「名物刀剣『義元(宗三)左文字』の虚実」(2019、『大阪大谷大学紀要』53巻)



展示中の義元左文字



重要文化財 酒伝童子絵巻 画／狩野元信 詞書／近衛尚通・定法寺公助・青蓮院尊鎮三卷（部分）室町時代 大永2年（1522）サントリー美術館所蔵



パイネイラの木の四状態＝花、実、綿、葉 4 Situações de Árvore de PAINEIRA = Flores, Frutos, Algodões, Folhas



Floração



Frutos de Paineira em 21-05-2021 パイネイラの実 2021 年 5 月 21 日撮影

Após 100 dias, os Frutos da Árvore Paineira Transformaram-se em Algodão
パイネイラ(トックリキワタ)の実が100日間で綿になりました



Foto em
01-SET-2021

Após a algodões, as folhas da paineira cresceram em abundância
パイネイラの木は綿が散った後、9月26日には葉が生い茂っていました



Foto em
26-SET-2021

【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そがよしなり
曾我義成

ysoga@rimobloco.com.br

事務所(Escritório) 11-4057-2377

携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ほんこはらくにひこ
盆子原国彦

kbonkohara@live.jp

おさだたかとし
長田譽歳

takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

こやまのぼる
小山徳

tokukoyamano@gmail.com

しかたすすむ
志方進

ssshikata@gmail.com

自宅(Residência) 15-3279-1521

皆様ふるってご投稿ください。

ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、もし、通知がない場合は、ご投稿の到着を確認してください。

ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【名簿訂正】住所や電話番号などを変更された場合は会長または編集委員へお知らせくださるようお願いいたします。

【お願い、お知らせ】

次号は2月上旬に発行予定です。

ご投稿は1月20日(木)までにお願い致します。

【編集後記】

今号へも多くのご投稿をありがとうございました。

相変わらずのコロナ禍ですが、皆様どうぞお元気でお過ごしください。

